



福祉はすべての人に平等に保障される権利である

どんな障害があっても受け入れる
そんな福祉施設を作りたかったのです

みぬま福祉会

Minuma Welfare Organization

そばにいてほしい

結婚したい

私だけでなくみんなを大事にしてほしい

アイドルになりたい

漫画家になりたい

まんじゅうが食べたい

なやみを聞いてほしい

好きな人と一緒にいたい

散歩に行きたい

みんなと仲良くしたい

のんびりしたい

浅田真央に会いたい

困っている人を

助けてあげたい

コンサートにたくさん行きたい

自由に買い物に行きたい

AKBに会いたい

スムーズに歩けるようになりたい

けいちゃんが早く退院してほしい

困った時に助けてほしい

私はケーキがいい

サッカー選手になりたい

さおり織の先生になりたい

楽しいのがいい

幼稚園の保育さんになって
子どもの面倒が見たい

みんなのお手伝いをする

大事にされたい

はたけの仕事を頑張りたい

おとうさんになりたい

体を使った仕事をしたい

甥と姪にお小遣いをあげたい

デートしたい

お母さんを楽にしてあげたい

おしゃべりしたい

犬をかいたい

ステンドグラスで

ジェットコースターを作りたい

健康でいたい

安心して暮らしたい

職員を楽にしてあげたい

お金をためてママにプレゼントを買う

障害のある人の中には、

自分で世界を探索したり、世界を広げていくことに

大きな制約や制限を抱えている人がいる。

何らかの意思表示を仲間から仲間に伝えていくことの難しさ、

身体に触ってみたいと思っても、移動することができない困難。

まわりの人がしている何気ない動作や経験にあこがれを持っている人がいる。

障害はやはり不自由であるとあらためて感じる。

だから私たちは、

仲間たちの主体的な願いを実現できる

労働や暮らしを保障することをめざしていかなければならない。

一人を大切にすることが
みんなを大切にすることにつながる

Cherish one, cherish all.

これは社会福祉の本質的な価値だと考えています。

一人を大切にすることは、一人ひとりの違いが十分に理解されること。

その人にあつた生活、労働、教育、医療が受けられ、

ともに生きる「仲間」としてその自主性が尊重され、

人権が最大限守られることです。

ともに働き、ともに生活し、ともに地域を作っていく「仲間」。

同じ時代をともに生きる「仲間」として歩んでゆきたい。

私たちは、施設に通い、施設で暮らしている人たちのことを「仲間」と呼んでいます。

現実に困難と思う状況でも、

「断る理由ではなく受け入れる条件を話し合う」ということにしていたため、

実際はどんな場合でも入所が決定しました。

「大変さ」ではなく「必要」に目を向けて、実現するために力を合わせ、

新たな問題を発展の契機にしよう。

困難がある人、問題を抱えている人を受け入れることが私たちを豊かにしてくれると。

私たちにとって困難は宝物です。

その奥底には制度から差別を受けている苦しみに対する共感や正義感があります。

Our idea was
to build a welfare institution
which accepts every person,
whatever mental and physical obstacles they had.

どんな障害があっても受け入れる、
そんな福祉施設を作りたかったのです

「わがままを言わない」ことも

「わがままを言える相手」も

どっちも大切

It is important not to be selfish,
but it is also important to have someone
who lets you have your own way.

障害があってもなくても、人は一人では生きていきません。

共に過ごす仲間存在は人を大きく成長させます。

人との交わり、仕事や暮らしを通して仲間が変わっていくのです。

一人ひとりが大切にされ、どの人にも等しく接するまわりの人の姿をしっかりと見て、

だれもが集団の大切な構成員であることを理解します。

援助を受ける立場だった仲間が自然に協力し合い、支え合い、互いを思いやっています。

自分で動くことが困難な重い障害のある仲間であっても、仲間同士さまざまな関係を築いていくようになります。

ある日、食事の介助を受ける仲間の表情が一変して眉間にしわが寄り口はへの字に。

その様子をそばで見えていたまわりの仲間が気づいて、

「昔からすっぱい物は苦手なようだから、ほかの物から食べ始めるといいと思う」と介助の職員に伝えてくれたこともありました。

その人らしい暮らし方を気にかけてくれる仲間がいて、

個を大切に作る集団があつてこそ、

プライバシーが尊重されるのです。

They will realize that
this is where they want to belong.
We will stand by them
all through their lives.

その人の居場所がつくられる

その人の人生にきちんと最後まで寄り添う

相手に関心を持つ。その人の暮らしを大切にする。

小さな変化に気づく。思いを受けとめる。

大切にされている実感とわかちあう共感が思いやりをはぐくみます。

働くことで喜びを感じ、日々のリズムが整って、生活に張りや生きがいが生まれるのです。

仲間もまた年を重ねていきます。

成人式をみんなで祝い、還暦をみんなで祝い、お葬式もみんなで送ります。

一緒に死に向き合うことや最期を看取るといったことが重要なではありません。

そこに至るまでの「生きた日々」こそが代えがたいものなのです。

どんな作業にも参加しようとしないう仲間がいました。

「仕事しよう」と声をかけても横を向く。引きこもって出てこない。

大声をあげる。暴れる。服を脱ぐ。パニック。

何とかしようと試みましたがすべて拒否されて、ついにはお手上げでした。

ある日、紙切れに落書きする姿を見かけて、「お祭りのポスターに絵をかいて」と誘うと、

あれほどかたくなに仕事を拒否してきた人がすんなり書いてくれたのです。驚きでした。

「もうこれを仕事にしろしかない」

「絵を趣味ではなく仕事にしよう」

We have come to think that
it is more human
to develop a different work style.

「違う働き方」をつくり出すほうが
より人間的ではないかとわたしたちは思うようになったのです

「どんなに障害が重くとも働ける。働くことは権利である」

自分のやりたいこと、興味のあること、自分らしさを表現できることを仕事にする。

その人にとってそれが本来の仕事なのではないか。

本人の好きなこと、得意とすること、独自性（表現）が活かされる仕事を見つけよう。

「働く」とは、

自分の力で外界にはたらきかけ、外界を変革し、

自分自身の内なる世界、内なる自然をもつくりかえていく営み。

障害のある人たちと一緒に仕事に取り組んできた中からこそ見えてきた働くことの意味や価値。

それは見えにくいけれど、

私たちの未来をつくるためにもっとも大きな価値になるのだと思います。

「一緒に仕事に取り組めるようになるまでに半年かかって、そのときに、
してあげるでもなく、してもらうでもなく、一緒に同じ目的に向かってス〜ツと進めた感じがして、
自分がこの仕事をしていく小さな自信をもらった気がした」

人と人との関わりにマニュアルはありません。

現実には既存概念を超える出来事がつきつぎに起きて、

社会通念が通用しない場面がいっぱいあるのです。

固定観念で人と接するとだめなんです。

だから、障害者の支援にはクリエイティブイティが必要です。

Developing human relationships is
what welfare is all about.
We believe this is
a very creative work.

福祉とは、人間関係そのものが仕事
この仕事がすごくクリエイティブな仕事なんだと思っています

いろいろなことを考え、想像し、対応し、表現する。

絵を描くのは得意じゃないけれど、

この仕事がすごくクリエイティブな仕事なんだと思っています。

「職員と利用者」ではなく、共に生きる仲間として日々を暮らすこと。

その人の隣に座って一緒に考えたり、助けたり助けられたりする関係でありたい。

たがいに支え寄り添い、みんなで重みを分かち合う、そんな関係。

わがままを言ったりときにぶつかることがあっても、同じ人間同士だからそんな時もある。

すべての要求を受け止めるだけではよい関係は築けない。

同じ時代を生きる仲間として、人間的な共感を持って寄り添い、一緒に悩みながら職員も
成長していくのだと思います。

「そこを利用する仲間だけの施設ではなく、新しい社会的・歴史的価値観をつくるためにいろいろな人が集まっていこう、そんな外に開かれた場所にしていこう」

と、思いを込めて「集」と名付けました。

表現活動を通じて、障害の有無に関係なく、人と人とを豊かにつないでいきます。

「表現すること」は人間が生きることそのもの。

人間は生きること自体に価値がある。表現すること、存在すること、そこには大きな価値がある。

そういうことに気づかせてくれる、勇気と力を与えてくれる。

うまく言葉にできない。

気持ちをうまく表現できない。抑えることができない。

隙間をぬって出てくる抑圧されてきた感情。

「工房集」は

「場のエネルギー」です

「工房集」という場で

仲間や職員が自分を表現しているのです

“Kobo Shu” is an
energetic place,
where the artists and staff
express themselves.

認められたい、理解されたいという強い想いが、

思いもかけない未知の表現や行為になって現れてきます。

作品を見た人が感じる、考える。描いた本人に想いを馳せる。

作品が、本人と周囲をつなぐツールになる。

作品を作った本人が幸せになることだけが、求める意味でもありません。

作品が出ていくことで、本人やわたしたちの側だけがただ単に幸せというのではなく、

それが社会的にも意味があるということを、「工房集」はやりたかったのです。

福祉はすべての人に平等に保障される権利である

「施設づくりは、施設をつくるだけの活動ではない、仲間をつくる活動だ」

ある母親が言ったその言葉は人々を励まし、

「わが子とともに、本当に大変なもう一人の仲間を守ろう」

「この子も大事、同じようにあの子も大事でしょう」

その想いがみんなの心の奥深くに届きました。

今のこの活動が、障害のある我が子や仲間たちの未来を豊かにしていくという

大きな確信が生まれたのです。

時代を切り拓いているという実感のなかで親たちは語りました。

「もうこの子に先に死んでほしいと思わない。私がいなくてもみんながこの子を支えてくれる」

「障害の子を持ってよかった。この子がいることで教えられることがたくさんある」

みぬま福祉会は仲間たちだけでなく、家族や職員、

そこに関係するみんなにとって成長の場になっていました。

「困難や例外的な状況にある人を切り捨てない」「つないだ手を離さない」姿勢は、

人間のよりよく生きたいというあたりまえのねがいと共通して

個や集団を発達させる力になります。

他者の痛みに共感し、怒りや不安、危機感をおなじように感じるができるかどうか。

仲間も家族も職員も、一人ではありません。

多くの人と手をつなぎ、たくさんの方が合わさって、きっと社会を変えていく力になるのです。

朝、短期入所を終えて帰宅する高2の女の子に会った。タオルをかみまくっているその子に、「おいしい?」と聞くと、にこっと笑った。母親に「そろそろ進路ですね。」という、「入りたいところがあるけど、いっぱいダメみたいです。」と言った。この子の願いをかなえることができないという答えだった。

2014年、実際の進路は厳しく、どこかに入ればいいという切実さで、支援学校の先生からも「すきなところに入ることを望める状態じゃあない」という話をよく聞く。本人も母親も先生もずいぶん辛いだろうと思う。

私たちは、この願いに応えることが福祉事業や社会の役割だと捉えることにする。

好きなどころに入りたいという当たり前の願いから目をそらさず、実現に向けた一歩を探し発言する姿勢が、「人を大切にする」具体的な方法だと考えている。

夜勤で動き回る職員の傍らで、洗濯たたみの手伝いをしている仲間が、裏返しになっている服をひっくり返そうと片手で服の内側を握って振り回している。両手を使うことができない彼女が、手伝ってあげたいという気持ちであみだした工夫も同じその大切な一歩である。

家族は後援会を組織している。職員はもちろん、多くの市民に呼びかけ1000人くらいが会員になりみぬま福祉会の一方の車輪として、障害者の生活と権利を守り発展させるための運動を担っている。

施設作りなどの事業を進めるときには、よく「せっかくならいものにしよう。」と言い、現状を考慮した内向きの提案より、思いっきり夢みたいな提案がみんなの心を動かす。

夢みたいなことを実現したいと願っているからだと思う。

保障すべき権利の水準を高めたいという願いである。

その願いを実現するために誰にでもできる一歩を大事にして、そのことに共感する人を増やし、実現するために力を合わせ、力強く二歩目を踏み出す力にしている。

1984年、障害が重いため養護学校卒業後の行き場がなく、集団や社会から切り離されそうになった人たちを守ろうと、教員、父母、地域の会が立ち上がり、みぬま福祉会が設立された。

それから30年、この機会に節目になるパンフレットを作ろうということになった。みぬま福祉会をどう紹介するかという話し合いの末、みんなの歩みの中で見つけ出し、大事にしようと積み上げてきたことをまとめることにした。障害がある人たちの暮らしや労働の中で発見した価値が、社会の価値として、社会のあり方に影響を与えるものになることを願っている。

理事長 高橋孝雄

一歩を踏み出すこと



みぬま福祉会

後援会本部

川口市木曾呂 1374
TEL:048-294-0955
FAX:048-294-4458

法人本部

川口市木曾呂 1374
TEL:048-294-0955
FAX:048-294-4458

川口太陽の家

(生活介護：30名)

川口市木曾呂 1374
TEL:048-294-0955 FAX:048-294-4458

アトリエ輪

(生活介護：20名)

川口市木曾呂 89-4
TEL:048-874-9944 FAX:048-762-6735

大宮太陽の家

(生活介護：20名)

さいたま市大宮区北袋町 2-394-2
TEL:048-650-7671 FAX:048-650-7672

工房集

(川口太陽の家従たる事業所 生活介護：19名)

川口市木曾呂 1445
TEL:048-290-7355 FAX:048-290-7356

「工房集」はみぬま福祉会の事業所の一つであるが、一方で社会福祉法人みぬま福祉会のメンバーの表現活動を社会につなげる‘プロジェクト’でもあり、法人全体で取り組んでいる。福祉の現場（アトリエ）にギャラリーが併設されているのが特徴で、ショップがあり、作品展中はカフェにもなるという様々な機能を兼ね備えている。

さいたま市大宮区障害者生活支援センターみぬま

(相談支援)

さいたま市大宮区東町 1-141-6 第二吉田ビル 1F
TEL:048-650-6460 FAX:048-727-2627

さいたま市北区障害者生活支援センターみぬま

(相談支援)

さいたま市北区宮原町 2-62-17
TEL:048-796-5705 FAX:048-796-5706

埼玉北障害者生活支援センターたいよう

(相談支援)

白岡市野牛1030 ホープ館102
TEL:0480-48-7731 FAX:0480-48-7732

埼玉北障害者生活支援センターきらら

(相談支援)

久喜市青毛 753-1 ふれあいセンター久喜 2F
TEL:0480-26-9753 FAX:0480-24-3577

川口市障害者相談支援センターみぬま

(相談支援)

川口市木曾呂 1374
TEL:048-290-7371 FAX:048-294-4458

川口市障害者入所施設しらゆりの家

(短期入所事業：10名)

川口市朝日 3-16-14
TEL:048-299-4741 FAX:048-299-4742

白岡太陽の家にじ

(生活介護：20名)

白岡市西 2-18-6
TEL:0480-92-7686 FAX:0480-31-7824

蓮田はずの実作業所

(生活介護：20名)

蓮田市川島 608-1
TEL:048-764-2981 FAX:048-764-2982

オレンヂホーム

(共同生活援助：20名)

川口市木曾呂 249-1
TEL:048-297-3001 FAX:048-294-4458

ケアホームサンライズ

(共同生活援助：20名)

蓮田市蓮田 5-135
TEL&FAX:048-769-8800

白岡市障害者デイサービスセンター

(日中一時支援：20名)

白岡市千駄野 445 はびすしらおか 1F
TEL&FAX:0480-93-0201

地域活動支援センターたいよう

(地域活動支援事業：18名)

久喜市青毛 753-1 ふれあいセンター久喜 2F
TEL:0480-24-0051 FAX:0480-24-3521

太陽の里

(施設入所支援：60名 生活介護：48名 短期入所：11名)

白岡市小久喜 450
TEL:0480-93-1101 FAX:0480-93-1486

新白岡作業所そよかぜ

(太陽の里従たる事業所 生活介護：12名)

白岡市新白岡 3-55-11
TEL:0480-91-3667

大地

(施設入所支援：30名 生活介護：38名 短期入所：2名)

蓮田市黒浜 1045-1
TEL:048-764-3881 FAX:048-764-7788

シャイン

(児童発達支援事業：10名)

蓮田市黒浜 1045-1 大地内
TEL: 048-768-2121 (日中連絡先：070-1549-3497)

FAX: 048-764-7788

サポートセンターたいよう

(居宅介護 重度訪問介護 行動援護 移動支援)

川口市木曾呂 1374
TEL:048-294-4480 FAX:048-294-4458

生活サポートセンターたいよう

(生活サポート事業)

白岡市小久喜 450
TEL:0480-93-1101 FAX:0480-93-1486

1984年4月	『みぬま福祉会』を結成
1984年5月	無認可施設『太陽の家』を浦和市松本に開設、仲間4人、職員3人
1985年10月	『社会福祉法人みぬま福祉会』認可おるる
1986年4月	知的障害者更生施設（通所）『川口市太陽の家』を川口市に開設
1986年5月	『みぬま福祉会後援会』発足
1987年4月	無認可施設『第2太陽の家』を川口市に開設
1989年4月	心身障害者地域デイケア施設『第3太陽の家』を大宮市に開設
1990年4月	心身障害者地域デイケア施設『浦和太陽の家』を浦和市に開設
1992年4月	知的障害者更生施設（入所）『太陽の里』を南埼玉郡白岡町に開設
	太陽の里に『知的障害者短期入所事業』を併設
	『第2太陽の家』と『大宮太陽の家』を閉所
1999年4月	生活ホーム『オレンヂホーム』を川口市に開設
2000年4月	生活ホーム『サンライズ』を蓮田市に開設
2001年10月	川口太陽の家に『重症心身障害者B型通園事業』を併設
2002年4月	『川口太陽の家分場 工房集』を川口市に開設
2002年10月	身体障害者療護施設『大地』・身体障害者デイサービスセンター『ふらっと』の複合施設『蓮田太陽の里』を蓮田市に開設
2003年10月	生活ホーム『第2オレンヂホーム』を川口市に開設
2004年4月	心身障害者地域デイケア施設『大宮太陽の家』をさいたま市大宮区に開設
	心身障害者地域デイケア施設『白岡太陽の家 にじ』を南埼玉郡白岡町に開設
2005年4月	身体障害者デイサービスセンター『白岡町身体障害者デイサービスセンター』を白岡町より委託を受け開設
2005年7月	心身障害者地域デイケア施設『蓮田はすの実作業所』を蓮田市より委託を受ける
	知的障害者地域生活援助事業グループホーム『第2サンライズ』を蓮田市に開設
2005年10月	さいたま市障害児（者）地域療育等支援事業『さいたま市大宮区障害者生活支援センター』をさいたま市大宮区に開設
2006年1月	埼玉県障害児（者）地域療育等支援事業（小規模型）『埼玉葛北障害者生活支援センターたいよう』を南埼玉郡白岡町に開設
2006年2月	埼玉県障害児（者）地域療育等支援事業（小規模型）『川口・鳩ヶ谷障害者生活支援センターみぬま』を川口市に開設
2006年10月	居宅支援事業『サポートセンターたいよう』を川口市に開設し東部出張所を蓮田市に開設
2007年8月	埼玉県生活サポート事業『生活サポートセンターたいよう』を南埼玉郡白岡町に開設
2008年4月	相談支援事業『さいたま市北区障害者生活支援センター』をさいたま市北区に開設
2010年6月	『太陽の里新白岡作業所』を南埼玉郡白岡町に『太陽の里』の従たる事業所として開設
2012年4月	埼玉県障害者生活支援センターきらら（身体）の事業所を受託（久喜市）
2013年4月	川口太陽の家の『重症心身障害者B型通園事業』が制度廃止により事業廃止
2015年3月	久喜市地域活動支援センター『たいよう』を他法人より引き継ぎ事業を開始
2015年4月	『浦和太陽の家』を閉所
2015年4月	生活介護事業所『アトリエ輪』を川口市に開設
2015年5月	児童発達支援事業『シャイン』を蓮田市『大地』内に開設
2016年4月	短期入所施設『しらゆりの家』を川口市から委託を受ける

発行 : 社会福祉法人みぬま福祉会
 川口市木曾呂 1374
 TEL:048-294-0955 FAX:048-294-4458

発行日 : 2016年5月1日

編集協力 : 中津川 浩章 アトリエノル

デザイン : PORT

英訳 : 田村 晃児 佐藤 真実子

みぬま福祉会ホームページ <http://minuma-hukushi.com/>
 工房集ホームページ <http://kobo-syu.com/>